

第1章

「最後の成長市場」 アフリカ



アフリカ大陸には、54カ国（世界の国の数の約28%）の国があり、約10億1,990万人（世界の人口の約15%）の人が、約3,000万km²（世界の約23%）の土地に住んでいる。これまで内乱と紛争など混乱続きで期待に応える発展ができず、研究、援助の対象であったアフリカであるが、混乱が収まったため、その豊富な資源、とりわけ鉱物資源とエネルギーなどの地下資源に注目が集まり、それらの探査・開発が始動し始めた。

地下資源は目に見えないので、どのくらい埋まっているか分からない。しかし、探査を続けると新たな発見がある。そういった理由で、今まで分かっていた以上の地下資源の存在が分かってきた。もともと地下資源が豊富なことは期待されていたので、近年の資源ブームに乗って「アフリカ資源ブーム」が起こってきた。さらに探査により新たな資源が見つかったことで、その勢いは止まらない。地下資源の開発と共に、多くの人口と広い国土を抱えているので、その経済発展は大きなものが期待される。「最後の成長市場」としてアフリカは期待されるようになった。

多くの資源企業がアフリカに進出する中で、日本企業の歩みは遅いように思える。このチャンスを逃してはいけない。

民族・言語・文化の多様なアフリカ

アフリカは人類発祥の地といわれ、事実、南アフリカに最古の人類が住んでいた洞窟が見つかっている。それにも拘らず、世界から畏敬の目で見られず、長い間成長から取り残され、博物館でも見るような特別な目で見られてきた。

一口にアフリカといっても、多くの国々がある。気候も熱帯雨林、サバンナ気候、地中海性気候など、地域により様々で、民族／人種・宗教・慣習も異なり、当然ながら歴史、政治・経済、文化社会的条件もバラエティに富んでいる。

アフリカ大陸は54カ国ある。通常、サハラ以南アフリカ（サブ・サハラア



アフリカの国々

フリカ)といわれる49カ国をアフリカということが多い。北アフリカ5カ国は、その異なる歴史も含め、政治・経済・社会的文化圏からサハラ以南のアフリカとは一線を画すと考えられているからである。

本書では、金属鉱物資源を重点的に見て、エネルギー資源が注目を浴びている国も併せて見ていくこととした。取り上げた国々は、金属鉱物資源で重要な南部アフリカ、新エネルギーフロンティア地域と呼ばれる東アフリカ、西アフリカの一部を選んだ。

多様性に富んでいる国家が集まるアフリカだが、資源も多様性に富む。アフリカ

リカという広い範囲でとらえるせいでもあろうが、鉱物資源、エネルギー資源の各種ほとんどが賦存している。それらの調査、開発に臨むには、資源のある当該国に入って大地や人々に触れて仕事をするわけで、特有な民族、文化、慣習も理解して臨む心構えが必要である。

アフリカの民族の数は多い。もともといた民族に加えて、他国から入り込んできた民族もあるし、混ざり合ってきた民族もある。ざっとしたところ約80の民族があると言われている。大概の国が複数の民族からなっている。

アフリカの言語研究者によると、アフリカで母語として話される言語は2,100種類以上、数え方によっては3,000種類以上あり、アフロ・アジア語族、ナイル・サハラ語族、ニジェール・コンゴ語族、コエ語族、オーストロネシア語族、インド・ヨーロッパ語族の6つに分類される。他にもいくつもの小さな語族や他との関連がない孤立した言語、まだ分類されていない言語が分布している。さらに、アフリカには多様な手話が存在し、その多くは孤立した言語となっている。

アフリカの言語のうち、およそ100の言語が民族内でのコミュニケーションに広く使われており、なかでもアラビア語、ベルベル語、アムハラ語、ソマリ語、オロモ語、スワヒリ語、ハウサ語、イボ語、ヨルバ語は数千万人によって話されている。方言と言われるような似通った言語を一つとして数えると、上位12言語は合わせて75%、上位15言語は85%のアフリカ人に用いられている。中部アフリカと東部アフリカで広く使われるスワヒリ語は日本人にも知られている。著者もアフリカの鉱山で働いた時や地方の調査の時はスワヒリ語を使っていた。

また公用語は、植民地であった国が多いので旧宗主国が普及させていたものをそのまま使っている場合が多い。というのも、国境線が引かれたのは旧宗主国同士の取り合いの結果であり、また多様な民族・部族同士の境界ははっきりしておらず、言語境界もはっきりせず、そういったことも考慮されずに国が形



成されているので、一つの部族、民族の言語で国を代表することが困難なのである。今となつては、国連の公用語になっているような言語を公用語にした方が外国との交流にも便利である。

したがって、人々の日常生活では、特に教育を受けていない人は土着言語を使っている場合が多い。一国の公用語は一つとは限らず、旧宗主国の言語の複数とか、旧宗主国の言語と自国の民族語を公用語としている場合もある。また、公用語の他に、スワヒリ語のように自国で割合に統一的に使われている言語を国語として定めている国もある。南アフリカ共和国では11言語を公用語と定めている。

公用語としては英語とフランス語が二大勢力としてある。欧米の言語としては、続いてポルトガル語とスペイン語である。アフリカの固有言語では、北部